

平成31年1月

流れが変わったのか、空気が変わったのか。

新年明けましてお目出とございませう。今年も古田土が気づいたこと、伝えたいことを「きたない字」シリーズとして書かせていただきます。私は、昨年の4月1日にグループ代表を飯島勲仁に任せ、税理士法人古田土会計の代表社員として楽しく仕事をしていますが、独立創業してから36年向を振り返り、気づいたことをいくつか書きます。

① 倒産した会社と生き残っている会社と成長している会社。 私が独立してすぐ中小企業家同友会に入会したとき、一番多かった業種がメリカス業でした。5社位お客様に存ておりましたが、倒産と廃業で全てなくなりました。経営努力(た)内部留保もしていましたが、残念ながら生き残れませんでした。時代の流れに対応できなかったからです。印刷業の会社もたくさんありました。多くの会社が倒産(た)生き残っているのは、小規模の家族経営をいっているところと大規模化して差別化した商品、技術、営業力のある会社です。倒産した会社の社長も中小企業家同友会で熱心には勉強し、社員教育もし、経営指針も作りました。同友会で若手の経営者10社ばかり集まり、経営計画書作成の勉強会を始めました。株プロットハウス本山の本山社長を中心に、合宿研修をして経営計画書を作成し発表会をやり、お互いに招待し、元気づけおこしました。その仲間で今も発表会を続けているのは、株高輪ゲーゼン1社のみです。株プロットハウス本山さんも倒産しました。時代の流れに会社の商品・サービスが適応できなく売上は毎年々減少したためです。特に本山社長は営業力に力を入れていたが時代の流れには逆戻りませんでした。私は独立してすぐ倫理法人会に入会し、鈴木自工物の故、鈴木貞夫社長と出会い、自動車整備業のお客様をたくさん紹介してもらいました。鈴木社長は、車検のコピーをいす早く取り入れた。サテライト店を出したと業界に先がけで新しい手を次々に打ち出しました。私が知り合った昭和58年1月には、15~16人位だったのが、今は200人を超えた優良企業になっています。私が鈴木社長から学んだのは、社長の仕事は時代の流れの先を読み、時代に合った商品・サービスを取り入れ、よいものは素直に学んで実行する商人の姿勢です。大変感謝しています。

② 空気があつというまに変わった。 去年1年間で「古田土所長結婚します」と報告しに来た社員は8人います。披露宴には呼ばれたのは1組のみです。他は入籍のみか身内だけ、又は海外で結婚式です。私が結婚した当時は仲間がいるのはあたりまえ、それがいつのまにか仲間がいない披露宴があたりまえになり、今後は披露宴もなくなるかもしれません。これは流れが変わったのではなく空気が急激に変ったのであつ、あつという向に浸透すると思います。人の意識の変化はあつという向に変わるので、この空気の変化に気づかないと、会社と社員が見過ごれるかもしれません。ある会社の忘年会に参加した。毎年続いていた全社員によるパフォーマンスがなくなくなっていました。会社が強制的にやさせることは、パワーハラにあるからだとです。あるテレビ局の調査でも、忘年会に強制的に参加させることはパワーハラにあたるかと市場調査をしたところ、約60%の人がパワーハラにあたるかと回答したそうです。社員教育のやり方も見直していかなければならなくなりました。私達が昔からあたりまえのようにやってきたことに社員に負担をかけていることはいろいろあります。例えば社員旅行は、社員が望んでいるのか、止めるのがよくなく、社員がワクワクするよう社員旅行を企画するのが知恵です。存せなく止めてしまうと楽しみにしている社員ががっかりします。楽しみにしている社員のほうか絶対多数だからです。空気が変わったのにその空気に合わせないと、空気が吸えなくなるので死んでしまいます。「不易流行」という言葉があります。どんなに時代の流れが変わるにしても、空気が変わろうと、人も会社も変えてはいけないうのがあります。それをいかり自覚し、変えるべきものは知恵を出し、知恵を出した分、人も会社も今迄以上に成長できると信じている。

name 古田土 満